

公立南丹病院広報誌

平成 21 年 3 月号
公立南丹病院



「病院連絡橋から臨む JR 山陰線複線化事業」

JR 西日本や沿線自治体などが進めている「JR 山陰線複線化事業」は、京都－園部間約 33km の単線部分 22.8km の複線化を目指して、平成 15 年 9 月から始まった。平成 21 年 2 月 14 日には馬堀－亀岡間の複線化が完了した。今後、平成 21 年 3 月には八木－園部間、同年秋には亀岡－八木間が複線化され、平成 22 年春までには京都－園部間の全線が複線化される予定である。病院の連絡橋からは、線路の伸延工事がよくみえる（資料参考：京都新聞）

発刊のご挨拶・・・院長 梶田 芳弘

看護科のご紹介・・・総看護師長 大嶋 清子

「認定看護師」ってどんな仕事？・・・看護師長(WOC 認定看護師) 船越 千里

電子カルテの導入・・・医事課電算係主査 井内 秀記

新型インフルエンザ対応訓練報告・・・主任看護師(感染管理認定看護師) 上田 多加子

「AED」を設置しました・・・救急部長兼循環器内科医長 計良 夏哉

地域防災訓練参加の報告・・・看護師長 藤阪 みさ代

糖尿病教室の案内・・・糖尿病委員会(栄養科管理栄養士長) 八木 成子



公立南丹病院 (0771)42-2510(代)
ホームページ <http://www.nantanhosp.or.jp/>

広報誌発刊のご挨拶

公立南丹病院院長 梶田 芳弘



寒く厳しい冬が
終わり、待ちこがれ
ていた春がやって
参りました。しかし医
療界は未だ冬の時
代から脱しきれてい
ないのが現状です。
今回広報誌の発刊
に際し、ご挨拶を申

し上げます。

公立南丹病院は、京都府南丹医療圏唯一の公立総合病院で、地域住民の医療と健康を守る拠点として利用されています。一般医療以外に、救急医療、未熟児などの周産期医療、結核などの感染症医療など、民間で出来ない不採算医療の実践が公立病院の責務であると考えています。また細分化、専門化された臨床各科の充実と、医師や看護師など病院職員の資質の向上を図り、高度医療を実践するよう努めています。職員全員が社会正義に則り医療に従事し、医師から患者さんへ正しくインフォームドコンセントがなされる開かれた病院作りに努力しています。

また当病院は、この地域で開業されている先生方と連携して患者さんの医療を行う開放型病院の承認を受けています。患者さんのため、また医療資源の無駄を省く意味でも、病診連携と病病連携を進めて行く所存です。

今後とも、名実共に当医療圏における中核病院として、地域住民に愛され、信頼される病院を目指して、職員一同頑張っ参ります。ご支援・ご指導の程宜しくお願い申し上げます。

看護科のご紹介

総看護師長 大嶋 清子



皆さまこんにちは。
看護科について紹介
させていただきます。当
院看護科は、公立南丹
病院の理念に沿って、
南丹医療圏の住民に
信頼される看護を目指
して、地域に貢献でき
るよう努めています。

看護科の方針

- 1 心あたたまる看護を提供する。
- 2 患者さまに満足していただける看護を提供する。
- 3 同僚間の協力が生み出す看護を目指す。

看護科の概要

構成メンバーは総看護師長1名、副総看護師長(病棟と兼務)2名、看護師長13名、主任看護師15名です。

看護科職員数は正職員数319名(看護師282名、准看護師14名、看護助手23名)、パート職員数31名(看護師18名、准看護師2名、看護助手11名)です。

看護単位は9病棟、外来、手術室、腎センター、在宅、健診センターです。

看護体制は三交替制です(希望により二交替制も試行)。看護方式は固定チーム継続受け持ち制で、チーム間で協力し、継続した看護を提供しています。入院基本料7対1(現在10対1)に向けて頑張っています。

地域に根ざした病院だから…

「心あたたまる看護」を提供し、患者さまに満足していただくよう努めています。公立南丹病院の理念である、「地域の患者さまから愛され信頼される病院」を目指しております。

入院患者さまの高齢化、DPCの導入による入院期間の短縮、複雑な業務の増加、多職種が協働する今日の医療現場において、患者さまが求められているものは何かを考え、判断し、笑顔と優しさを忘れずに日々看護を行っています。

専門性を活かした看護

「専門性を活かした看護」を提供し、患者さまに満足していただき、地域へ貢献するよう努めています。看護の専門性が問われる今日、看護職の役割が大きく期待され、その活動が診療報酬にも反映されるようになりました。このような医療ニーズに対応できるよう、当院看護科にも感染管理認定看護師と皮膚排泄ケア認定看護師が各1名います。今後、さらに認定看護師による看護の専門性を活かした専門外来等の充実をはかり、地域住民のニーズに期待できるよう努め、地域へ貢献したいと考えております。

看護教育システム

知識と技術を身につけて患者さまのニーズに対応できる看護師になるため、教育システムを充実し、日々自己研鑽に努めています。プリセプター制度を導入し卒業教育の充実をはかり新人を育てています。理解するまで教え、メンタルフォローもしています。

経年別に教育プログラムを計画し、その人にあった教育計画を立て看護科職員を育てています。また、キャリアアップできるよう、院内外の研修会に積極的に参加できるよう支援し、自己研鑽に努め患者さまのニーズに対応できる看護科職員を育てています。

私たち看護科職員は、患者さまに「南丹病院にきて

良かった」と思っていただけの看護を提供できるよう頑張っております。ぜひ一緒に働いてみませんか。お待ちしております。

「認定看護師」ってどんな仕事？

看護師長(WOC認定看護師) 船越 千里



「WOC/ウォック」という職種をご存知ですか？この名称で馴染みが深い病院ではイメージできますが、現在は皮膚・排泄ケア認定看護師と名称変更されています。より一般市民にも理解しやす

い名称ということではありますが、医療者間においてはWOCという名称が定着しています。

WOCとは、Wound Ostomy Continenceの頭文字をとっています。創傷・ストーマ・失禁に対する看護を専門的に行います。専従ナースとして配置されることで、褥瘡ハイリスク加算が算定されます。

現在認定看護師は16分野あり、それぞれの業務内容に応じて、実践・指導・相談を行います。本院においては、感染管理認定看護師が在籍しており、感染対策において重要な役割を果たしています。

皮膚・排泄ケア認定看護師は、その言葉の通り、皮膚・排泄に関する看護を主体に行います。皮膚は、全身を覆う重要な臓器です。あらゆる外敵から全身を防御する重要な働きを担っています。皮膚の角質層はバリア機能として、水分喪失防止や保湿機能、静菌・緩衝作用があり、これらの作用のおかげで、たとえば、何時間水泳をしていても、水膨れになることもありません。しかし、化学熱傷などは、毛孔を通じて皮下組織に至る重度熱傷となります。

皮膚をケアするという事は、看護を行う上で重要であると考えます。そして、排泄は、人間の尊厳に深く関与しています。失禁、すなわちオムツを当てる事が最終ゴールではなく、より、元の生活に近い状態を維持することが課題となります。

たとえば、現在オムツは多種多様に開発されており、快適性もあります。しかし、健常人がオムツ内で排泄することがどれだけ困難なことであるか実践したことがあるでしょうか。病院では、容易にオムツを装着する場面があります。致し方ない場面もありますが、その行動がいかにか人間の尊厳を傷つけているかを考えた時、排泄に対して問題意識をもって看護できるかどうかことが重要であるといえます。

ストーマケアも含めこれらすべての活動は、病院の中だけでなく、在宅、施設に至るまで幅広く、今後は地域に根ざした認定看護師としての活動をしていきたいと考えています。

電子カルテの導入

医事課電算係主査 井内 秀記

公立南丹病院は平成15年6月から電子カルテを導入しました。電子カルテには様々な長所がありますが、最大の特徴は「診療の迅速化」と「安全性の向上」による良質な医療サービスの提供が挙げられます。

当院には多くの診療科があり、それぞれの外来診察室と9つの病棟を持っていますが、医師がどこにいたとしても、そばにある端末から患者さまのカルテを見ることができます。紙のカルテの到着を待つことなく診療行為に入ることができます。また、様々な検査の結果も種別毎に整理されており、検索がしやすいのも特徴です。紙のカルテでは日付順には整理できても、検査項目を絞って見比べていくという行為は電子カルテほど容易ではありません。カルテ記載の内容については、手書きの文字の読みにくさによる障害がありません。例えば、注射の薬剤を読み間違えるといったような事故は、紙カルテに比べれば圧倒的に少なく

なります。患者さまの待ち時間を短縮する目的で予約診療制も実施しました。また、カルテ情報を保護する為にインターネットに接続する端末とは分離させています。

平成21年2月現在、新しい電子カルテ・システムに移行する為の作業が進行中です。さらなる運用の効率化を図り、例えば放射線画像については今後はフィルムではなくデジタル・データで管理します。

当院は、電子カルテの長所を生かして、より良い医療が提供できるように努めて参ります。

新型インフルエンザ対応訓練報告

主任看護師(感染管理認定看護師) 上田 多加子



平成20年10月30日南丹保健所主催による新型インフルエンザ対応訓練が実施され、南丹保健所・消防署・病院関係者による総勢60名程度の大掛かりな訓練が実施されました。新型インフルエンザが発生すると、口丹波の住民4分の1発病し(36,750人)最悪で740人が死亡すると推計されています。

今回の訓練ではW国より帰国した人と接触があった患者が発熱相談センターへ相談の電話をする場面より開始されました。4名が受診し、入院受け入れ訓練では、発熱外来受診患児1名と近隣発熱外来より救急車にて搬送された重症患者を受け入れました。このような訓練は全国で実施されており、災害時に準じた対応が必要であるとマスコミでも報道されています。

当院は地域の住民の生命健康を守る最終拠点病院であることから、新型インフルエンザが発生した場合には十分な対応が期待されます。しかし、単一施設での対応には限界があるため、正確な情報を共有し地域でより良い連携を図ることが、それぞれの施設の機能が保たれ最大限に力が発揮されると考えます。そして私たち個人レベルでも、新型インフルエンザにかからないために、また広げないためにマスクの着用や手洗いをしっかり行い、食料品の備蓄などの準備や不用意な外出を避けることが重要な感染対策となります。家庭でも学校が休校になったり、公共機関に支障が起きた場合のシミュレーションを家族で話し合っておくのも必要と考えます。

「AED」を設置しました

救急部長兼循環器内科医長 計良 夏哉



当院は平成20年6月に2台のAED(エーイーディー:自動体外式除細動器)を新設しました。設置場所は外来正面玄関前と3階連絡橋の第二病棟側(南詰)です。

AEDは自動音声の案内により電気ショックを発生させて、命に関わる悪性不整脈を元に戻すための装置で、一般市民の使用も許可されています。近年多くの公共施設に設置され、市民による救命例も生まれてきています。

医師のみが使用できる手動式の除細動器は、以前より全ての病棟に配備されていましたが、病院におけ

るAEDの設置にはいくつかの意味があります。①入院患者の除細動の目標は急変より3分以内であり看護師等の第一発見者が、医師到着までに処置を開始する必要があること②検査等で移動中の患者、外来患者の安全を守ること③病院は患者や職員以外にも、多くのお見舞いの方なども訪れる公共の場であり市民にAEDを提供する意味などがあります。

当院はより安全で質の高い医療を実践する病院として、今後も最新医療機器の整備や、それを適切に使用する職員教育を継続して行っていく予定です。

地域防災訓練参加の報告

看護師長 藤阪 みさ代



公立南丹病院は災害拠点病院に指定されており、災害派遣医療チーム(DMAT:ディーマツ)を有しています。現在、南丹DMATチームに所属しているのは厚生労働省の研修を受けた医師3名・看護師2名・臨床工学技士1名・事務員1名で、日本DMAT隊員に登録されています。DMATは大地震や大事故の際、被災地に迅速に駆けつけ、救急医療を行うための専門的な訓練を受けたチームです。京都府内でも被災者15名以上の事故や集団災害があったときには、現地に駆けつけることになっています。

平成20年度は、9月15日に京田辺市で行われた京都府総合防災訓練と、11月16日に南丹市園部町において初めて開催された南丹市総合防災訓練に参加しました。南丹市の訓練では、各種訓練への参加の他に、発災時における当院の医療チームの体制、

ライフライン途絶時の備蓄体制など災害拠点病院としての機能を紹介するパネル展示も行いました。

今後も地域住民の安心のため努力していきたいと考えています。

糖尿病教室の案内

糖尿病委員会(栄養科管理栄養士長) 八木 成子

当院では毎月1回糖尿病教室を開いています。内容は糖尿病とその合併症について医師の話や薬剤師による薬物療法、作業療法士による運動療法、検査技師による検査について、看護師による足のケアについて、管理栄養士による食事の話などです。

糖尿病教室終了後、個人相談や質問も受け付けています。

完全予約制となっており、毎月第2火曜日、15:00～16:30の時間帯で行っています。入院、通院患者さまで、ご希望の方は各外来担当医、または病棟の看護師にご相談の上、予約日時をお申し込み下さい。

お電話での問い合わせは0771-42-2510(内線2630)、15:00～17:00の時間帯で受け付けています。多くの方のご参加をお待ちしています。

平成21年の糖尿病教室の内容

第1回 1月13日

◆糖尿病とは何か。糖尿病ってどれだけ食べられるの？(その1)

第2回 2月10日

◆糖尿病の検査について。糖尿病とは何か。糖尿病ってどれだけ食べられるの？(その2)

第3回 3月10日

◆糖尿病の運動療法について。糖尿病ってどれだけ食べられるの？(その3)

第4回 4月14日

◆糖尿病の薬物療法について。外食と上手に付き合

うコツ。

第5回 5月12日

◆糖尿病の療法について。本音で語ろう！糖尿病。

第6回 6月9日

◆足のケアについて。油との上手な付き合い方。

第7回 7月14日

◆糖尿病の合併症(大血管障害)について。動脈硬化予防の食事。

第8回 8月11日

◆糖尿病の合併症(腎症)について。腎臓を守る食事。

第9回 9月8日

◆糖尿病の合併症(神経障害)について。高血圧予防の食事。

第10回 10月13日

◆糖尿病の合併症(網膜症)について。肥満予防の食事。

第11回 11月10日

◆糖尿病と歯の病気について。間食は食べていいの？

第12回 12月8日

◆足のケアについて。お正月、宴会で血糖があがらないコツ。

